

大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における英語テストの扱いに対する提言

1. 序

平成 28 年 8 月 31 日に、高大接続改革について文部科学省より発表された文書において、「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の進捗状況が発表され（http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/28/08/1376777.htm）、平成 29 年度初頭に「実施方針」が策定されるという見通しが明らかにされた。日本言語テスト学会は、高大接続改革において大学入試に 4 技能テストを導入する方向性についてここに支持を表明し、その中心的な改革である大学入学希望者学力評価テスト（仮称）における英語テストとそれに関連する諸問題に対して以下のような提言をしたい。

2. 大学入学希望者学力評価テストにおける英語テスト

(1) 透明性の高い手続き

民間の資格・検定試験を活用する際に、国（センター）が認定を行うとあるが、その認定の手順を明確化すべきである。その際、以下の 2 点の実施を提案する。

- i. テストの実行可能性だけでなく、テストの質も十分検討した上で決定を行うこと。
- ii. 認定の手順を策定する際には、言語テスト研究者を複数名配置し、最新の言語テスト研究の成果を反映した、透明性が高いものにすること。

(2) 情報公開

民間の資格・検定試験に関して、以下の 3 点の実施を提案する。

- i. 民間の資格・検定試験はそれぞれ、テストの目的、測定しようとする能力及び受験対象者が異なるケースが多い。このことを、テスト使用者（スコアを利用する各大学、受験者、その他大学入試に関わる者）は広く認識すること。
- ii. テスト機関は、テストの目的と測る能力、採点基準や採点方法、また作成・実施方法やテストの適切な使用法など、テストを選ぶ際に欠かせない詳細な情報を公表すること。特に、学習指導要領にどのように準拠しているテストなのかを明示すること。
- iii. 文部科学省主導で、テスト使用者とテスト機関に上記 i および ii の徹底を明確に要請すること。

(3) 大学入試における選抜に関する考慮点

i. スコア換算表の扱い

複数の民間の資格・検定試験を認定する場合、現行案ではスコアを換算表で比較することが前提とされている。しかし、各テストは測る能力が異なるため、テスト間でスコアを直接比較したり、そこに現れる細かな差を一般的な英語力の差と解釈したりすることは適切ではない。文部科学省においては、このような制約について明示し、適切なテスト結果の解釈と使用をテスト使用者側に要請すること。

ii. 各大学のニーズやアドミッション・ポリシーとテストの関連づけ

各大学は、それぞれのニーズやアドミッション・ポリシーに対して体系的な分析を十分行った上で、それをふまえたテストを選定し、テスト結果を適切に活用すること。文部科学省は、適切なテストの選定と結果の活用のための具体的な手順を、言語テスト研究の知見を十分にふまえながら提案すること。

(4) 公正な機会

受験者に関して、経済格差や地域格差、障害等による受験機会の不平等が生じないよう、引き続き具体的な対処策を検討・実行すること。特に、地域格差については、地方によって受験できるテストが限られ、たとえ受験が可能であっても、そのためかなりの時間と費用が必要になることを理解した上で、公平な機会を提供すべく支援や改善すること。

(5) 波及効果だけに頼らない方策

これまでの波及効果の実証研究を概観すると、4技能テストを導入するだけでは、高校の英語教育改善につながるとは限らないことが予測される。これらの研究の知見を十分鑑み、より良い波及効果を起こすような方策を策定し、実行すること。同時に、英語教育の改善をテスト改革のみに頼るのではなく、教員の指導力向上を目指す教員養成・教員研修の強化を実現するため、以下の2点を行うこと。

- i. 言語テスト研究における成果を十分反映させつつ、教員養成課程や教員研修の内容を精査すること。
- ii. その内容に、英語教育におけるテスト本来の役割と教師が果たすべき役割、テストについての基礎知識と適切な使用方法を含めること。

(6) 学習につながるテスト結果の活用

4技能テストの結果を、高校と大学入学後の学習に十分生かすために、全てのテスト機関は、指導や学習により役立つようなスコアレポートと関連資料を提供すること。さらに、テスト使用者が指導や学習に活かすことができるような手順や方策を提案すること。

3. 結び

日本言語テスト学会は、教員やテスト関係者に対するアセスメント・リタラシー（評価・テストについての知識・スキル）習得を促進する啓蒙活動を過去20年間行ってきた。当学会では、このような活動を引き続き行うとともに、他の学会や組織とも協力しながら、大学入試改革に向けて積極的に協力する準備がある。また、学会構成員である我々も、教員や評価者、テスト関係者の一人として、それぞれの専門分野・知識を生かし、大学入試や教室における評価、教育実践の改善に全面的に協力をしていく所存である。

平成29年1月4日

日本言語テスト学会

作成委員

片桐一彦（専修大学）

小泉利恵（順天堂大学）〔事務局長〕

小山由紀江（名古屋工業大学）

齋藤英敏（茨城大学）

澤木泰代（早稲田大学）

清水裕子（立命館大学）

深澤 真（琉球大学）

横内裕一郎（弘前大学）

渡部良典（上智大学）〔会長、文責〕

（五十音順）